

室蘭工業大学-学報

NO.631



入学宣誓式の様子（3ページに関連記事あり）

2022年 5月号

目 次

◇ 学内の動き ◇	
三笠市との包括連携に関わるイメージラベル・デザインコンペを開催……………	1
寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」が年度末報告会を開催……………	2
令和4年度 入学宣誓式を挙行……………	3
大樹町役場新庁舎に室蘭工業大学特製アルミプレート地図を寄贈……………	5
◇ 情報・資料 ◇	
令和4年度科学研究費助成事業の交付内定……………	6
◇ 外部資金 ◇	
民間等との共同研究の受入れ……………	12
受託研究等の受入れ……………	13
奨学寄附金の受入れ……………	14
その他の補助金の受入れ……………	15
◇ 人 事 ◇	
人事異動……………	16
表彰……………	18
◇ 学内会議 ◇	
学内各種委員会等の開催……………	19
◇ 日 誌 ◇	
学内行事……………	20
学外行事……………	20

学内の動き

三笠市との包括連携に関わる イメージラベル・デザインコンペを開催しました

令和4年3月18日(金)に室蘭工業大学カフェ「TENTO」において、室蘭工業大学と三笠市との包括連携に関わるイメージラベル・デザインコンペを開催しました。

石炭地下ガス化の研究(板倉特任教授)などで協定を締結している三笠市と室蘭工業大学は、両者のイメージラベルを制作することを目的に、本学学生を対象としたデザインコンペを企画し、大学院生6名、学部生3名がエントリーしました。

審査員は、空閑学長をはじめ、三笠市の中原産業政策推進部長、三笠市でワイン製造を行う山崎ワイナリー栽培担当の山崎氏ら6名が努め、エントリーした学生は、

デザインのコンセプトについてスライドなどを使用し、ラベルの想いをプレゼンしました。

審査の結果、最優秀賞は大学院生の深澤さん、優秀賞は同じく大学院の三上さんが選ばれました。審査員の空閑学長は「どれも素晴らしい作品で、完成度が高いと感じた。イメージラベルを使用し、石炭地下ガス化など三笠市との研究や連携の活性化につながれば」と評価しました。

イメージラベルは、山崎ワイナリーのワインや教職員、三笠市職員などの名刺などで活用する予定となっています。



デザインコンペの様子～カフェ「TENTO」



深澤さんの作品



三上さんの作品

寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」が 年度末報告会を開催しました

令和4年3月28日(月)に寄附講座「未利用資源エネルギー工学講座」の年度末報告会を対面とオンラインを併用して開催しました。

本寄附講座は、ニューデジタルケーブル株式会社、太平洋興発株式会社、株式会社アクアジオテクノ、岩田地崎建設株式会社、特定非営利活動法人地下資源イノベーションネットワーク、一般社団法人北海道環境保全技術協会の6機関により、地方創生につながるハイブリッド石炭地下ガス化(H-UCG)の実証試験の実施及び未利用資源エネルギー等に関連する技術開発に資するため、平成31年4月1日から2年間の設置期間で開設され、さらなる研究開発のため、令和5年度まで3年間の期間延長がされました。

報告会に先立ち、本寄附講座の構成員である金志訓助教から「環境配慮型建築材料-ジオポリマーについて-」と題してご講演いただきました。コンクリートの主な材料として使用される普通セメントは、その製造過程において大量の二酸化炭素を排出しますが、建築産業での環境負荷低減のために二酸化炭素排出の抑制が望まれていることから、ジオポリマー(Geopolymer)は普通セメントを使用しない材料として注目されており、詳細について説明がありました。

その後、本寄附講座の担当教員である板倉賢一特任教授から本寄附講座の概要、令和3年度の活動実績、三笠市CO2固定事業、NEDO調査事業、JOGMEC受託研究について報告がありました。

ジオポリマー-Geopolymer
Joseph Davidovits : 1979年~提案
ジオポリマー;
アルミノシリケート材料+アルカリ刺激剤+水
→アルカリ活性セメント(Alkali Activated Cement)

単量体(モノマー) → ポリマー反応 → 重合体(ポリマー)

講演する金助教

本日の内容

1. 寄附講座の現況
2. 2021年度の活動概要
3. 「炭採掘跡へのCO2固定」プロジェクトの進捗
4. 「木質バイオマスと未利用石炭の石炭地下ガス化によるCO2フリー-水素サプライチェーン構築に関する調査」事業の進捗
5. 受託研究「採炭跡地の環境を考慮したCO2スラリー主剤の探索とカーボンリサイクル」の成果概要
6. 来年度の計画
7. 意見交換、質疑応答

報告する板倉特任教授

令和4年度 入学宣誓式を挙行了しました

理工学部第4回、大学院博士前期課程第58回及び大学院博士後期課程第33回入学宣誓式を、4月5日(火)本学体育館において挙行了しました。

今年度は学内関係者のみ参列のなか入学宣誓式が行われ、空閑学長から次のとおり告辞が述べられました。

告辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長年にわたり勉学の環境を整えられ、本人たちの努力を支えてこられたご家族ならび関係者の方々にも、心から敬意とご祝辞を申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で3回に分けた入学宣誓式となりました。理工学部そして大学院入学の皆さんの晴れ舞台となる入学宣誓式を心待ちにされていたご両親、ご家族を初め関係者の皆さんにもご出席いただくことは叶わず、心よりお詫び申し上げます。

本年度入学者は、理工学部学士課程の624名、編入学生46名、大学院博士前期課程250名、博士後期課程8名、合わせて928名の皆さんです。今年はコロナ禍での影響も大きかったと推察されますように、海外からの留学生は学部には13名、大学院は23名、合わせて36名とコロナの影響が殆どなかった一昨年(52名)と比べるとやや少ない人数となっています。ただし、理工学部学士課程入学者624名中、海外からは3ヶ国、13名(2.1%)、日本人学生の出身地は38都道府県に及んでいて、道外からの入学生は202名(32.4%)、道内からは409名(65.5%)となっており、たいへん幅広い地域から入学いただいております。また、本学の留学生の諸君の総数はこの4月で214名と、コロナの影響が殆どなく、過去最高であった一昨年(215名)とほぼ同人数となっており、教室に、研究室に、大学のキャンパスのあちこちにグローバルなダイバーシティにあふれた環境を有する大学となっています。

さて本日は、現在本学が取り組んでいる教育改革などホットなニュース、そして皆さんが本学在学中にどのようなことを心がけるべきか、身につけるべきかについて、私からの期待を述べさせていただきたいと思っております。

国立大学はこの4月より、6年タームの第4期中期目標期間がスタートしたところですが、本学は全国にある86の国立大学の一員として、「地域貢献」を大きなキーワードとして掲げ、北海道の課題解決は、日本の、さらには世界の課題の解決につながると考えて、教育改革・大学改革に取り組んでいます。4年目となる理工学部においては、ICTやAIの本質を理解して使いこなし、も

の・価値づくりに貢献できる学生諸君を育てる工業大学ならではの情報教育を推進しています。全学必修の手厚い情報教育を行うことで、昨年度には文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」(DS)の認定を得ています。

学部入学生の諸君はまず、講義棟での学びが始まります。講義棟のメインであるN棟は、2年前の全面改修を経て、学生諸君が積極的に自発的に授業に取り組むことができる、アクティブラーニングの手法を十分に活用できる教室が多く整っていますし、学習のための設備も充実させています。本学のもう一つの学びの中心である図書館も本年10月には大改修・増築が完成します。本学の教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)の象徴となる新しい図書館で、大いに勉強してください。

さて、皆さんはどのような目標・目的をもって室蘭工業大学に入学されたのでしょうか？

学部入学の皆さんはこれから貴重な4年間、大学院博士前期課程、後期課程の皆さんはそれぞれ貴重な2年間、3年間を是非とも有効に使ってください。本学で大いに学び、伸びしろを大きく大きく作りましょう。本学で、まずは幅広い理工学の基礎、工学と科学の専門基礎知識を学びましょう。そして、先ほども述べた文部科学省から認定を得た「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(DS)では、工業大学ならではの情報技術を全ての学生諸君に身につけることができるようにカリキュラムを用意しております。北海道の国立大学では本学と北海道大学のみがDS認証を受けていて、そこでは本学の優秀な教授陣が書き下ろしの教科書を作成して皆さんをお待ちしております。まずは、AIや情報科学の本質を理解し、国立工業大学の卒業生として必要十分な基礎知識を身につけた科学技術者を育てたいと考えています。これに応えるよう、皆さんも頑張ってください。皆さんが自ら確保した貴重な時間の計画と夢を持って、activeに授業に臨んでください。

しかしながらこの度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、通常の教室での対面授業や演習・実験に加えて、一部の授業ではオンラインサービスを利用したりモート環境での授業の実施も想定しており、いわゆるハイブリッド型の授業スタイルとなります。我々教職員も、このような環境下で最大の授業効果を得られるように奮闘中であり、学生諸君の皆さんにも、通常の教室での対面授業以上に、学生諸君が自ら、積極的に集中して、授業に取り組んでいただく必要があります。私たち教職員も全力でサポートいたしますが、勉強するかしないか、これからの学生生活が上手くいくかどうかは、皆さんの

学内の動き

対応・心がけにかかっていることは言うまでもありません。

昨年の暮れ、低コストロケット開発で本学と包括連携協定を結んで共同研究を行っているインターステラテクノロジズ社の稲川社長を招いて、本学の蘭岳セミナーで学生諸君への講演会を開催しました。その際にも稲川社長は、「学生時代はもっともっと夢を持ってたくさん勉強してください」と盛んに時間の重要性和実践的学びの重要性を学生諸君に説いていました。私も含めて社会人になってしまうと、誰しも仕事と時間に追われて、学生時代の恵まれた時間を思い出します。もう少し、しっかりと勉強すれば良かったと後悔する時が多々あります。

とりわけコロナ禍でのリモートやハイブリッドスタイルの授業環境では、「自ら大人の大学生として」、真摯に学習に取り組む姿勢が問われることとなります。皆さん18歳以上の「大人としての大学生の学び」とは、勉強しなさいと言われて学ぶのではなく、自らその必要性を十分に理解して能動的に、主体的に、自己責任の下、学ぶということです。是非、心に留めておいてください。

さて、これは先月の学位記授与式でも述べましたように、私は本学の強みは、「確かな研究力をベースとした教育力」にあると強く信じています。「確かな研究力」というのは、世界に通用する、すなわち世界水準の研究力ということです。主に研究力の観点から、本学は2つの世界の代表的な大学ランキングにランクインしています。昨年6月に発表されたTimes Higher Education (THE)の世界大学ランキングには、国立大学は57校がランクインしており、本学は4年連続のランクイン(1201+位)となりました。昨年11月に発表されたQSアジア大学ランキングにおいても、本学は初めて401~450位にランクインしました。また本学卒業生の企業からの評価も高く、企業の人事担当者から見た大学イメージ調査においては、北海道内の大学で第3位となっています(日経HR2022版)。さらに、この3月末に発表になったばかりの、THEの世界大学ランキング日本版(主に教育力をその指標としている)においては、日本で111-120位にランクインしていて、昨年の131-140位から2ランクアップしました。この2022年度版においては、本学は、学生諸君への教育充実度や高校教員からの評判調査の結果が昨年よりも大きく向上していました。このような結果は、まさに、エビデンスに基づいた「確かな研究力をベースとした教育力」の成果の表れだと考えます。

皆さんは、本学に日本1、2位を競う研究分野があることをご存知ですか? 本学は、朝日新聞出版社の大学ランキング(2019~2022年度版)によるとコンピュータ科学分野の論文1報あたりの被引用指数(他の研究者の参考となり論文の質が高いことになる)では、4年連続で日本1、2位を競っています。繰り返しとなりますが、このようなevidenceに基づいた本学教授陣の裏付けのある「確かな研究力をベースとした教育力」こそ、本学の実績であり強みです。

さて最後になりますが、本学が目指している大学院充実の話をごささせていただきます。皆さんは理工系の国立大学と私立大学の大きな違いはどこにあるかご存じでしょうか。本学も含めて理工系における国立大学の大きな特徴は、教員の優れた研究力を活かした大学院教育の充実にあります。我が室蘭工業大学大学院においても、この度は、博士前期課程に250名、後期課程に8名の新入生を迎えました。私は、博士前期課程入学者が300人を超え、学部卒業生の50%以上が本学大学院に進む状況、すなわち、室蘭工業大学に入学した学生諸君は、本学の大学院博士前期課程(修士課程)へ進学するのが当たり前、普通となるような大学院大学を目指したいと強く願っています。学長としましては、先ほどから述べておりますように、本学教員の「確かな研究力」、すなわち、「世界水準の研究力に基づいた教育力」により、一層の大学院教育の充実を図り、そこで学ぶ学生諸君からも、優れた人材を求める企業、産業界からも魅力ある大学院教育を目指します。

博士後期課程においては、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の次世代研究者挑戦的研究プログラムの採択を得て、学生諸君の経済的支援や研究支援を大きく充実させているところです。このプログラムの採択も北海道内では本学と北海道大学のみとなっており、分野トップレベルの本学コンピュータ科学分野と、建築土木、機械航空、電気電子、物理、化学、生物など様々な科学技術分野との2つの分野を両輪とした異分野融合型の人材育成を加速させてまいります。

本日、本学に入学された皆さんぜひ、我々室蘭工業大学の教員の研究力・教育力の優れたところを吸収して、世界で活躍する高度理工系人材の一員として育ててください。理工学部に入学生ばかりの新入生には少々、気が早すぎるかもしれませんが、是非、本学の魅力ある大学院への進学も考慮に入れて、本学での学びを頑張ってください。以上、新入生の皆さんに私からの大学生活での心構えと期待を述べさせていただきます、入学宣誓式の告辞とさせていただきます。

令和4年4月5日

室蘭工業大学長 空閑良壽



入学宣誓式の様子

大樹町役場新庁舎に室蘭工業大学特製 アルミプレート地図を寄贈しました

令和4年4月8日(金)に清水一道ものづくり基盤センター長(学長補佐)が、本学と包括連携協定を結ぶ大樹町を訪問し、今後の連携強化等を目的として特製のアルミプレート地図を寄贈いたしました。

酒森町長から「今後も引き続き、室蘭工業大学と色々な分野で連携を強化したい」との挨拶をいただきました。

寄贈した特製のアルミプレート地図は令和4年1月に竣工した大樹町役場新庁舎の応接室に飾られています。



室蘭工業大学特製アルミプレート地図



清水一道ものづくり基盤センター長(左)と大樹町酒森町長

令和4年度科学研究費助成事業の交付内定

《新規分》

(千円)

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研究題目	直接経費 内定額	間接経費 内定額	合計
基盤研究(B) 一般	しくみ解明系領域 助教 小林 洋介	植物との対話をモデル化した大規模ト マト施設栽培グロウワーの判断シミュ レータ	4,400	1,320	5,720
基盤研究(C) 一般	もの創造系領域 教授 風間 俊治	バルプレスバルブの試作研究～液体の 相転移・粘度変化を利用して～	1,100	330	1,430
	もの創造系領域 准教授 永井 宏	埋戻し土の不確実性が新設杭の周面抵 抗に及ぼす影響の解明と周面抵抗力の 算定法の構築	1,300	390	1,690
	もの創造系領域 助教 浅田 拓海	AI型路面測定の実用による地域の救 急医療に資する舗装維持管理方策の提 案	1,500	450	1,950
	もの創造系領域 助教 佐々木 大地	金属の短寿命化促進条件の探索：非鉛 系圧電セラミックス作製法創製に向け て	2,300	690	2,990
	しくみ解明系領域 教授 佐伯 功	Co-W拡散バリアコーティングの多成 分系および実材料への展開と社会実装	1,300	390	1,690
	しくみ解明系領域 教授 中野 英之	アゾベンゼン系分子ガラスのキラル光 メカニカル挙動に与える環境場の影響	1,500	450	1,950
	しくみ解明系領域 教授 庭山 聡美	対称ジエステルの環境に優しいモノ加 水分解反応のメカニズム解明と高分子 合成への応用	1,300	390	1,690
	しくみ解明系領域 准教授 太田 香	次世代無線システムの超低消費電力化 を目指した通信制御技術	700	210	910
	しくみ解明系領域 准教授 黒澤 徹	強相関超伝導物質群におけるペア密度 波が創造する新奇量子状態の微視的探 索	1,800	540	2,340
	しくみ解明系領域 准教授 近藤 敏志	教師データ作成を不要とする医用画像 向け深層学習モデル転用技術の開発	1,300	390	1,690
	しくみ解明系領域 助教 下村 拓也	共通アニオン誘起によるイオン液体+ イオン液体混合物の劇的な相挙動変化 に関する研究	2,200	660	2,860

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研 究 題 目	直接経費 内 定 額	間接経費 内 定 額	合計
基盤研究 (C) 一般	ひと文化系領域 教授 清 末 愛 砂	離婚手続時の養育プログラムの制度設計に関する政策提言－アジア地域における比較研究	400	120	520
	ひと文化系領域 教授 竹ヶ原 裕 元	バーンサイド環の一般化とその乗法的性質の研究	1,300	390	1,690
	ひと文化系領域 教授 森 田 英 章	離散構造に付随するゼータ関数の基礎理論と応用に向けた展開	1,000	300	1,300
	ひと文化系領域 准教授 小 野 真 嗣	既存英語語彙表の再活用に向けたユーザビリティ尺度による有効性測定と満足度調査	600	180	780
	ひと文化系領域 准教授 上 村 浩 信	異なる運動タイプを弁別可能なニオイセンシングシステムの開発	1,500	450	1,950
	ひと文化系領域 助教 石 坂 徹	対話的プログラミング演習環境における自動採点システムの構築	800	240	1,040
若手研究	もの創造系領域 准教授 立 山 耕 平	自由自在な変形を可能とする階層的メカニカル・メタマテリアルの創製	2,400	720	3,120
	もの創造系領域 助教 井 口 亜希人	次世代光回路要素のための双方向ビーム伝搬法の性質を活用した高速設計基盤の構築	1,900	570	2,470
	もの創造系領域 助教 川 口 悟	深層学習を活用したポルツマン方程式のグリッドレス直接数値解析法の開発	1,500	450	1,950
	もの創造系領域 助教 武 内 裕 香	結晶の磁場配向を利用した非侵襲痛風診断システムの開発	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 助教 徐 建 文	超低消費電力山岳救助支援システムの研究開発	1,100	330	1,430
合 計		23件	34,200	10,260	44,460

《継続分》

(千円)

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研 究 題 目	直接経費 内 定 額	間接経費 内 定 額	合計
基盤研究 (A) 一般	しくみ解明系領域 教授 岸 本 弘 立	SiCセラミックスラスタに高い靱性を付与するハイパー・コンバインド技術	10,100	3,030	13,130
基盤研究 (B) 一般	もの創造系領域 教授 青 柳 学	ハイブリッド超音波浮揚システムによる6自由度アクロバティック・マニピレーション	5,000	1,500	6,500
	もの創造系領域 教授 川 村 志 麻	破碎性を示す火山灰質土からなる自然斜面の崩壊機構の解明と危険度評価システムの開発	2,000	600	2,600
基盤研究 (C) 一般	もの創造系領域 教授 有 村 幹 治	データ駆動型道路アセットマネジメントモデルの構築	900	270	1,170
	もの創造系領域 教授 市 村 恒 士	都市公園リノベーションに資する造園業の地域課題解決型事業推進に向けた経営学的分析	400	120	520
	もの創造系領域 教授 今 井 良 二	冷媒流量を極限まで低減させる、薄液膜蒸発を利用した高密度除熱デバイスの開発	1,300	390	1,690
	もの創造系領域 教授 木 村 克 俊	消波護岸の波浪による摩耗プロセスの解明とその抑止システムの構築	1,200	360	1,560
	もの創造系領域 教授 小 室 雅 人	鋼繊維混入無孔性コンクリートの耐衝撃用途構造物への応用・展開	1,000	300	1,300
	もの創造系領域 教授 辻 寧 英	目的特性を与えるだけで光デバイスを自動設計する多目的トポロジー最適設計法の開発	500	150	650
	もの創造系領域 教授 中津川 誠	機械学習法を活用して洪水被害の最小化を図るダム操作支援技術の開発	900	270	1,170
	もの創造系領域 教授 濱 幸 雄	ゾノライト系軽量高性能建材の開発	600	180	780
	もの創造系領域 准教授 大 石 義 彦	混相乱流せん断応力計を用いた粗密分布気泡による摩擦抵抗低減効果の最大化	400	120	520
	もの創造系領域 准教授 加 野 裕	集束表面プラズモンを利用した顕微複屈折測定法の開発と細胞異常診断への応用	900	270	1,170
	もの創造系領域 准教授 後 藤 芳 彦	有珠山の次期噴火予測対応研究：洞爺カルデラと有珠山の全噴火史解明	100	30	130
	もの創造系領域 准教授 境 昌 宏	有機酸環境中における銅の腐食機構の解明と微細加工技術への応用	500	150	650

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研究題目	直接経費 内定額	間接経費 内定額	合計
基盤研究(C) 一般	もの創造系領域 准教授 佐藤 信也	堤防やのり面におけるAIを用いた防 災用光ファイバ計測	300	90	390
	もの創造系領域 准教授 高瀬 裕也	コンクリートの効果的補修・補強に資 する細孔構造からメソ構造を結ぶ劣化 機構の解明	100	30	130
	もの創造系領域 准教授 成田 幸仁	トラクションドライブの転がり疲労損 傷メカニズム解明と疲労強度予測式の 導出	600	180	780
	もの創造系領域 准教授 畠 中和明	航空機の姿勢制御に適用する流体的推 力偏向ノズル内流れ場の理解と偏向性 能の最適化	800	240	1,040
	もの創造系領域 准教授 船水 英希	フローサイトメトリ法による血液凝固 構造の完全な3D情報復元と新規血液 診断法の創出	900	270	1,170
	もの創造系領域 准教授 真境名 達哉	全室暖房完成時代のエンブティネスト 期を迎えた住宅からみる寒地住宅の新 たな可能性	1,200	360	1,560
	もの創造系領域 助教 楠本 賢太	X線CTを援用したシリアルセクショ ニングによる微細組織の定量評価手法 の確立	900	270	1,170
	もの創造系領域 講師 松本 大樹	噴流群騒音の同期現象メカニズムを応 用した騒音抑制法の開発	200	60	260
	もの創造系領域 特任教授 相津 佳永	サイバー空間分光データベースを活用 したクラウド型皮膚分析システムの開 発	1,300	390	1,690
	しくみ解明系領域 教授 戎 修二	次世代物質開拓を目指した希土類硫化 物における特異物性の機構解明と多極 子由来の検証	400	120	520
	しくみ解明系領域 教授 佐賀 聡人	直交軸からの「さりげない」力覚サポ ートを体感できる空中描画インタフェ ースの実現	300	90	390
	しくみ解明系領域 教授 吉田 雅典	嚥下困難者向けとろみ付液体食品用の 粘性評価システムの構築と誤嚥防止安 全基準の確立	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 准教授 岡田 吉史	心電図から疑わしい心疾患への絞り込 みを可能にする自動識別システムの開 発	700	210	910
	しくみ解明系領域 准教授 神田 康晴	新規脱硫触媒の耐硫黄性評価方法の開 発と耐硫黄性発現のメカニズム解明	700	210	910

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研究題目	直接経費 内定額	間接経費 内定額	合計
基盤研究(C) 一般	しくみ解明系領域 准教授 倉重 健太郎	深層強化学習による多目的環境下での 調和的行動の実現	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 准教授 佐藤 和彦	不安定環境下で安定稼働可能な協調型 学習支援システムの開発とネパールで の実践活用	1,300	390	1,690
	しくみ解明系領域 准教授 澤口 直哉	Sea Glassに学ぶガラス固化体の化学的 安定性評価シミュレーションの基礎 開発	600	180	780
	しくみ解明系領域 准教授 澤田 研	匂い分子結合タンパク質の生理機構の 解析と薬剤輸送キャリアーへの応用	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 准教授 柴山 義行	数と形状を制御した量子渦輪による ボース凝縮体ダイナミクス研究への新 たなアプローチ	500	150	650
	しくみ解明系領域 准教授 高瀬 舞	高感度表面増強旋光度計測法の開発と 分子異性化のin situ可視化への応用	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 准教授 渡邊 真也	進化計算における深層学習を活用した 汎用性と効率性を両立したメタ戦略の 検討	1,000	300	1,300
	しくみ解明系領域 助教 李 鶴	平時・緊急時両立する耐災害IoTシス テムに関する研究開発	2,200	660	2,860
	ひと文化系領域 教授 曲 明	Moodleを活用したオンライン国際交 流・協働型中国語教育モデルの開発	400	120	520
	ひと文化系領域 教授 塩谷 亨	ポリネシア諸語における同系の前置詞 の用法の対応及び差異に関する対照研 究	300	90	390
	ひと文化系領域 教授 高橋 雅朋	枠付き曲線、枠付き曲面論の構築とそ の応用	800	240	1,040
	ひと文化系領域 教授 前田 潤	災害支援研究：災害被害とその後の諸 経験が適応状態に与える中長期的影響 について	1,000	300	1,300
	ひと文化系領域 教授 松本 ますみ	習近平体制におけるキリスト教とイス ラームの宗教中国化に関するポリテ イクスの研究	1,200	360	1,560
	ひと文化系領域 准教授 小川 祐紀雄	一般の自動車による広域センシングの ための管理可能な情報収集プラット フォームの確立	600	180	780
	ひと文化系領域 准教授 三村 竜之	文献資料とフィールドワークに基づく アイスランド語アクセント史の基礎研 究	200	60	260

区分	研究代表者 所属・職・氏名	研 究 題 目	直接経費 内 定 額	間接経費 内 定 額	合計
基盤研究 (C) 一般	ひと文化系領域 名誉教授 桂 田 英 典	Harder予想およびそれに関連する総合的研究	1,300	390	1,690
	教 授 佐 藤 孝 紀	次世代直流高電圧送電を可能とする新しい高性能ガス絶縁媒体の開発	600	180	780
若手研究	もの創造系領域 助 教 孔 徳 卿	超音波による血管内ロボット推進システム	1,000	300	1,300
	もの創造系領域 助 教 藤 平 祥 孝	コンポーネント化したテクスチャ構造を有した多層構造流体指の開発	900	270	1,170
	しくみ解明系領域 助 教 宮 崎 正 範	複合アニオン配列決定を可能にする量子ビーム複合解析による酸素スピン観測法の確立	300	90	390
	ひと文化系領域 准教授 阿知良 洋 平	技術学習の教育学的蓄積の再検討とその現代的再構成	800	240	1,040
	ひと文化系領域 准教授 可香谷 隆	接触角構造を伴う界面ダイナミクスに対する幾何解析的研究	700	210	910
	ひと文化系領域 准教授 内 免 大 輔	臨界型非線形楕円型方程式における解の集中現象の研究-余質量を伴う集中-	700	210	910
	ひと文化系領域 准教授 白 尚 燁	サハリンエウエンキ語の記述：サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明	1,000	300	1,300
合 計		53件	55,300	16,590	71,890
総 合 計		76件	89,500	26,850	116,350

外部資金

民間等との共同研究の受入れ

研究代表者・職・氏名	相手方区分	金額(千円)
もの創造系領域 教授 内海政春	中小企業	1,000
もの創造系領域 教授 河合秀樹	公益法人等	1,100
もの創造系領域 教授 清水一道	中小企業	1,008
もの創造系領域 教授 清水一道	大企業	1,000
もの創造系領域 准教授 境 昌宏	大企業	500
もの創造系領域 准教授 境 昌宏	大企業	500
もの創造系領域 准教授 中田大将	中小企業	520
もの創造系領域 助教 藤平祥孝	大企業	585
もの創造系領域 特任教授 相津佳永	大企業	1,859
しくみ解明系領域 准教授 安藤哲也	大企業	650
しくみ解明系領域 准教授 上井幸司	大企業	1,950
しくみ解明系領域 准教授 安居光國	大企業	780
しくみ解明系領域 准教授 渡邊真也	大企業	550
しくみ解明系領域 准教授 渡邊真也	大企業	585
しくみ解明系領域 助教 小林洋介	大企業	585
合 計 (15件)		13,172

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

受託研究等の受入れ

研究代表者・職・氏名	委託先区分	金額(千円)
もの創造系領域 准教授 金 沢 新 哲	独立行政法人	1,300
しくみ解明系領域 教 授 庭 山 聡 美	独立行政法人	0
しくみ解明系領域 准教授 太 田 香	独立行政法人	6,526
しくみ解明系領域 准教授 神 田 康 晴	大 企 業	47,518
合 計 (4 件)		55,344

※大企業・中小企業の別は、中小企業基本法（昭和38年法律第154号）第2条による。

奨学寄附金の受入れ

寄附者	目的	金額(千円)
個人寄附者(1件)	工学教育助成	30
公益財団法人火薬工業技術奨励会	工学研究助成	1,000
勇建設株式会社	工学研究助成	500
一般社団法人日本建築あと施工アンカー協会	工学研究助成	2,000
一般社団法人寒地港湾空港技術研究センター	工学研究助成	400
学校法人芝浦工業大学	工学研究助成	500
日本製鉄株式会社	工学研究助成	500
日本製鉄株式会社	工学研究助成	500
合 計(8件)		5,430

その他の補助金の受入れ

事業名	研究代表者・職・氏名	事業元	金額(千円)
令和4年度中小企業経営支援等対策費補助金(戦略的基盤技術高度化支援事業)	もの創造系領域 教授 内海政春	北海道経済産業局	38,610
令和4年度中小企業経営支援等対策費補助金(戦略的基盤技術高度化支援事業)	もの創造系領域 教授 清水一道	北海道経済産業局	21,950
合 計(2件)			60,560

人 事

人 事 異 動

国立大学法人
室蘭工業大学長発令

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和4年5月1日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉</p> 大学院工学研究科特任教授（しくみ解明系領域） 兼務：社会連携統括本部	岸 上 順 一	
令和4年5月1日	<p style="text-align: center;">〈配置換〉</p> 経営企画課主任（経営企画係） 経営企画課係員（評価分析係） 総務広報課係員（総務広報係） 総務広報課係員（労務管理係） 経理課係員（調達係） 経理課係員（調達係） 学務課係員（教務企画係） 学務課係員（学部教務係） 研究協力課係員（研究支援係）	千 葉 ななえ 玉 根 宏 大 村 田 佳 乃 黒 川 琴 音 境 亜麗玖 中 谷 果 帆 齊 藤 貴 臣 野 上 隼 渡 福 澤 颯 希	経営企画課主任（評価分析係） 事務局付係員 事務局付係員 事務局付係員 事務局付係員 事務局付係員 事務局付係員 経理課係員（経理係） 経理課係員（調達係） 事務局付係員
令和4年4月30日	<p style="text-align: center;">〈雇用期間満了〉</p>	大 谷 景 子 浦 田 順 子 後 藤 むつみ	大学院工学研究科事務補佐員 学務課事務補佐員 学務課事務補佐員
令和4年4月30日	<p style="text-align: center;">〈辞 職〉</p>	佐々木 沙 季	総務広報課図書学術情報室 事務補佐員
令和4年5月1日	<p style="text-align: center;">〈採 用〉</p> 大学院工学研究科技術補佐員 クリエイティブコラボレーションセンター 事務補佐員	宇 井 か な 大 谷 景 子	

発令年月日	異 動 内 容	氏 名	現 職
令和4年5月1日	総務広報課図書学術情報室事務補佐員 〈雇用期間更新〉	後 藤 むつみ 斉 藤 昭 子	大学院工学研究科事務補佐員

表 彰

本学名誉教授の嶋影 和宣先生が、令和4年春の叙勲において、瑞宝中綬章を受章しました。



嶋影 和宣先生は、昭和38年3月に東北大学教育学部を卒業後、昭和38年4月に東北大学工学部助手に着任し、昭和50年4月に同大学より工学博士が授与され、同助教授を経て、昭和61年4月に室蘭工業大学助教授に着任し、昭和63年4月に同教授に昇任しました。平成18年3月に本学を定年にて退職されるまで教育・研究に努めた他、平成9年に工学部材料物性工学科長、平成13年に機器分析センター長を歴任されるなど、大学の管理運営にも貢献され、平成18年4月に室蘭工業大学名誉教授になられ今日に至っています。

学内会議

学内各種委員会等の開催

< 3月24日～4月25日 >

開催日時 令和4年3月29日(火)
会議名 第35回役員会

開催日時 令和4年4月7日(木)
会議名 第1回教育研究評議会

開催日時 令和4年4月7日(木)
会議名 第1回役員会

開催日時 令和4年4月14日(木)
会議名 第1回大学院工学研究科博士後期課程専攻長会議

開催日時 令和4年4月14日(木)
会議名 第1回教授会

開催日時 令和4年4月15日(金)
会議名 第1回学長特命連絡会B

学内行事

- 3月25日(金) 2021年度技術部発表会
- 3月28日(月) 寄附講座年度末報告会
- 3月29日(火) 防災訓練
- 3月31日(木) 辞令交付・退職者表彰式
- 4月1日(金) 辞令交付
- 4月1日(金) 令和4年度事務職員基礎知識習得研修(18日まで)
- 4月4日(月) 室蘭工業大学初任教職員研修
- 4月5日(火) 令和4年度入学宣誓式
- 4月18日(月) メンタルヘルス講座(オンライン)
- 4月18日(月) 学生の定期健康診断(22日まで)
- 4月21日(木) 【4月のクラリベイトウェブセミナー】
英語論文アブストラクト執筆が上手くなる読みやすく効果的に「文と文をつなぐ」方法
- 4月23日(土) 学士対象合同企業説明会

学外行事

- 3月25日(金) 世界展開力強化事業公募説明会(オンライン)
- 3月25日(金) 文部科学省卓越研究員事業シンポジウム2022(オンライン)
- 4月8日(金) 大樹町役場新庁舎に室蘭工業大学特製アルミプレート贈呈(大樹町)
- 4月18日(月) 日本工学アカデミー北海道支部発足記念式典・祝賀会(札幌)
- 4月20日(水) 第54回国立大学図書館協会北海道地区協会総会(オンライン)
- 4月23日(土) 北海道地区国立大学法人等職員オンライン合同説明会(オンライン)

編集後記

◆ 教職員の皆様からの随想、提言等の御寄稿、あるいは学報への御意見、御希望、また、日頃感じていることなど多数お寄せくださるようお待ちしております。

(リンク先：総務広報課総務広報係、E-mail：koho@mmm.muroran-it.ac.jp)

(総務広報課総務広報係)



室蘭工業大学のキャラクター「ムロびょん」

■編集発行 室蘭工業大学総務広報課
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号 電話 0143-46-5014

■印刷所 株式会社日光印刷
電話 0143-47-8308